

2022（令和4）年度

香川県立保健医療大学大学院

保健医療学研究科

臨床検査学専攻

後期課程

二次募集

学生募集要項

- 出願期間 2022（令和4）年1月13日（木）～1月20日（木）
- 試験期日 2022（令和4）年1月29日（土）



香川県立保健医療大学

The Graduate School of Kagawa Prefectural University of Health Sciences

目 次

I	募集人員	1
II	選抜区分	1
III	出願資格	1
IV	事前相談	2
V	出願資格審査	2
VI	出願手続	3
VII	入学願書等の記入要領	6
VIII	入学願書等の書類	7
IX	選抜方法等	8
X	合格発表	10
XI	入学手続等	11
XII	ホームページ	12
VIII	問い合わせ先	12

保健医療学研究科

I	基本理念・目的	13
II	アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	13
III	博士後期課程(臨床検査学専攻)の概要	14
1	専攻の名称及び構成	14
2	学位の名称	14
3	博士後期課程における教育研究	14
(1)	教育目的	14
(2)	教育課程の特色	15
(3)	研究の特色	16
4	授業科目一覧	18
5	修了要件等	18
6	授業科目の概要	19

入学試験会場案内図	裏表紙
-----------	-----

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	若干名

II 選抜区分

「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第 104 条第 1 項の規定に基づき学位規則（昭和 28 年文部省第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者及び 2022（令和 4）年 3 月までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2022（令和 4）年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2022（令和 4）年 3 月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2022（令和 4）年 3 月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び 2022（令和 4）年 3 月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）
 - ア 我が国の大学を卒業し、大学、研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、本大学院研究科において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - イ 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育の 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2022（令和 4）年 3 月 31 日において 24 歳に達してい

る者

※ 出願資格(8)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です（「V 出願資格審査」を参照してください）。

2 社会人選抜

社会人選抜の出願者は、「1 一般選抜」の出願資格のいずれかに該当し、医療・保健・福祉施設、教育機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験（通算可）を有する者（2022（令和4）年3月31日までに該当する見込みの者を含む。）。

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(3年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」における相談の際に、あわせて教員にご相談ください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。

希望する特別研究の専門領域と教員の選択に当たっては、「博士後期課程 臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員」（16～17ページ）及び「講義等の内容」（19～28ページ）を参照してください。

事前相談の申し込みは、2021（令和3）年12月8日（水）～12月24日（金）までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当（TEL087-870-1212）まで連絡し、希望する教員と事前相談を行ってください。なお、この申し込みの受付時間は、午前9時から午後5時まで（土曜及び日曜を除く）とします。

また、次の「V 出願資格審査」を希望する者は、当該申請前まで（2021（令和3）年12月24日（金）まで）に事前相談をすませしておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(8)（社会人選抜で一般選抜出願資格(8)に該当する者を含む）で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、2の提出書類を封筒（封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください）に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

2021（令和3）年12月13日（月）から12月24日（金）まで

- ・ 郵送する場合 12月24日（金）午後5時必着とします。
- ・ 持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜及び日曜は受け付けません。

2 提出書類

- (1) 出願資格審査申請書（本学所定様式）
- (2) (1)の申請書に記載した過去10年間の主要(単著又は共著筆頭)の学術論文の中から、5編の学術論文
- (3) 最終出身学校等の卒業(修了)又は卒業(修了)見込証明書
- (4) 最終出身学校等の成績証明書又は調査書等(出身学校等の長が作成し、厳封したもの)
- (5) 臨床検査技師、薬剤師等の国家資格者としての実務経験を有する者は、その免許証の写し(A4サイズに縮小のこと)及び在職期間証明書(本学所定様式)
- (6) 返信用封筒(長形3号封筒(120mm×235mm)の表面に申請者の郵便番号、住所及び氏名を明記し、返信用切手(404円(簡易書留料金含む。))を貼付したもの)

※1 上記書類の作成に際しては、記入要領及び「VI-3 出願書類」の摘要欄を参照してください。

※2 申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、2022(令和4)年1月5日(水)に本人あてに郵送で通知します。

2022(令和4)年1月11日(火)までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に出願手続をしてください。

VI 出願手続

1 出願期間

2022(令和4)年1月13日(木)から1月20日(木)まで

- ・郵送する場合 1月20日(木)午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし及び土曜及び日曜は受け付けません。

2 出願方法

志願者は、出願書類を一括して本学所定の出願書類提出用封筒に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

3 出願書類

出 願 書 類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入学願書	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入してください。
写真票・受験票	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入し、縦4cm×横3cmの同じ写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前6か月以内に撮影したもの、カラー・白黒どちらでも可)の裏面に氏名を明記し、所定の欄(2か所)に貼付してください。
卒業・修了 (見込) 証明書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成したものを提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成績証明書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成し、厳封したものを提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
修士の学位等 授与(見込) 証明書等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機関が発行した授与(見込) 証明書を提出してください。
志願理由書	◎	◎	(本学所定様式) 本研究科への志望動機を記述してください。
修士論文要旨	○	○	修士論文がある場合は、修士論文の要旨を提出してください。 (A4判用紙に横書きで2,000字以内にまとめたもの)
修士学位取得後の 研究業績調書	○	○	修士の学位取得後、その成果をどのように公表してきたのか、どのような研究に発展させてきたのか等について記述して提出してください。 (A4判用紙1枚程度に横書きでまとめたもの)
研究計画案	◎	◎	研究計画の概要を提出してください。 (A4判用紙に横書きで1,200字程度にまとめたもの)
在職期間証明書	○	○	(本学所定様式) 「Ⅲ 出願資格」の1-(8)で出願しようとする者で臨床検査技師、薬剤師等の免許を有しているもの又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
承諾書	○	○	(本学所定様式) 在職のまま出願しようとする者は、所属長による承諾書を提出してください。

出 願 書 類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
免許証の写し	○	○	<p>社会人選抜で出願しようとする者又は「Ⅲ 出願資格」の1－(8)で出願しようとする者で臨床検査技師、薬剤師等の免許を有しているものが提出してください。</p> <p>※ 臨床検査技師、薬剤師等の国家資格に係る免許証の写しをA4サイズに縮小してください。</p> <p>※ 上記のうち、「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。</p>
入学選考料	◎	◎	<p>入学選考料は、30,000 円です。</p> <p>30,000 円の普通為替証書を出願書類と併せて送付してください。</p> <p>※ 普通為替証書には何も記入しないでください。</p>
証券送付書	◎	◎	<p>(本学所定様式)</p> <p>記入方法等は、本用紙を参照してください。</p>
受験票等返送用封筒	◎	◎	<p>(本学所定様式)</p> <p>住所、氏名、郵便番号を記入し、切手 404 円分を貼付して提出してください。手続き完了後、受験票を返送します。</p>
<p>※1 ◎印は全員必須、○印は該当する者のみ提出する書類です。</p> <p>※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、ご相談ください。</p> <p>※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。</p> <p>※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。</p> <p>※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。</p>			

4 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

5 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理できませんので、十分注意してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類及び入学選考料は、出願書類受理後、理由のいかんを問わず返還しません。
- (4) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので、注意してください。
- (5) 出願手続を完了した者には、受験票を郵送します。
なお、2022（令和4）年1月26日（水）になっても受験票が届かない場合は、前記「4 出願先」に電話で照会してください。
- (6) 障がい等を有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、2021（令和3）年12月24日（金）までに、あらかじめ前記「4 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報を第三者に提供することはありません。

Ⅶ 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- 1 *印の欄には、記入しないこと。
- 2 *印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を記入し、又は該当項目に○をつけること。
- 3 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。

○ 入学願書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「出願資格」欄は、出身学校等の名称及びその卒業等年月を記入し、事前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を記入すること。
- 4 臨床検査技師、薬剤師等の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。
- 5 「現住所」及び「合格通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。
なお、「合格通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。
- 6 裏面の「履歴書」欄には、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。
- 7 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

○ 写真票・受験票

- 1 それぞれ所定の欄に縦4cm×横3cmの同一写真を貼付すること。
- 2 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー・白黒のどちらでも可、出願前6か月以内に撮影したものであること。
- 3 写真の裏面に、氏名を明記しておくこと。
- 4 記入内容が、入学願書の記載内容と一致するよう確認すること。
- 5 その他、受験票裏面の注意事項を参照のこと。

※ 入学願書・写真票・受験票は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「履歴事項」欄の「学歴」及び「実務経験(職歴)」は、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、臨床検査技師、薬剤師等の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- 4 「現住所」及び「審査結果通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- 5 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

上記の他、各書類に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 入学願書等の書類 (別添封筒に在中)

1 出願書類

- (1) 入学願書・写真票・受験票
- (2) 志願理由書
- (3) 在職期間証明書
- (4) 承諾書
- (5) 証券送付書
- (6) 受験票等返送用封筒
- (7) 出願書類提出用封筒

2 出願資格審査書類

- (1) 出願資格審査申請書

Ⅹ 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で合否を判定します。

なお、総合得点と同点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	専攻に関する専門的な問題
英語	100	専攻に関する専門的な問題 *英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面接	100	個人面接

※ 配点は、一般選抜と社会人選抜では異なります。

区分	科目等	配点
一般選抜	専門科目	200
	英語	100
	面接	100
	合計	400
社会人選抜	専門科目	225
	英語	75
	面接	100
	合計	400

※ 社会人選抜は、一般選抜と同様に、専門科目は200点満点、英語は100点満点で採点し、専門科目を1.125倍とし、英語を0.75倍とします。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試験日	試験科目等	時間
2022（令和4）年 1月29日（土）	受験者集合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:10
	専門科目	9:15 ～ 10:45
	英語	11:00 ～ 12:00
	昼食	12:00 ～ 12:50
	受験者集合	12:50
	面接	13:00 ～

3 受験上の注意事項

- (1) 試験日の7日程度前から、朝などに体温測定を行い、体調の変化の有無を確認してください。なお、試験日の2週間程度前から発熱・咳等の症状がある受験生はあらかじめ医療機関で受診をしてください。

- (2) 入学試験当日は、必ず検温してください。新型コロナウイルス感染症に罹患し、試験日に入院中又は自宅や宿泊施設において療養中の者や、また、発熱・咳等の症状があり、試験当日の検温で37.5度以上の熱がある者は、受験できません。
- (3) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。
なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。
- (4) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後30分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (5) 試験当日は、マスクを着用してください。ただし、写真照合の際など、必要に応じて、試験監督者等の指示によりマスクを取り外していただきますので、御了承ください。
- (6) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (7) 机の上には、受験票・HB又はBの鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）・英和辞書1冊（英語の試験のみ（電子辞書の持ち込みは不可））以外のものは置かないでください。
- (8) 携帯電話、スマートフォン等は、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (9) 昼食（飲み物を含む）は各自で準備してください。校内の自動販売機は利用できません。
- (10) 試験当日、試験室の換気のため窓の開放を行います。寒暖の差が激しくなることが予想されますので、着脱可能な上着を持参するなど暖かくなる服装をご用意ください。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

※1 試験会場は、裏表紙の**入学試験会場案内図**を参照してください。

※2 試験会場の下見はできますが、建物内への立入りはできません。

※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません。**

X 合格発表

1 発表日・発表方法

2022（令和4）年2月3日（木）午前9時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します（同日午前9時過ぎの予定）。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、2022（令和4）年2月14日（月）午後5時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、2022（令和4）年2月15日（火）までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) 電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 香川県個人情報保護条例に基づく入学試験成績の簡易開示について
受験者本人の請求に基づき、次の要領により開示します。

- ・請求期間

2022（令和4）年2月3日（木）～2022（令和4）年3月4日（金）（土曜、日曜及び祝日を除く。）

- ・開示内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口の本学の受験票を持参のうえ、請求してください。
（受付時間は、9：00～12：00 及び13：00～17：00 です。）

XI 入学手続等

1 入学手続の期間

2022（令和4）年2月9日（水）から2月14日（月）まで

- ・郵送する場合 2月14日（月）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜及び日曜は受け付けません。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

3 入学手続

- (1) 上記2の場所へ、4の入学手続に要する提出書類等を一括し、書留扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記1の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものと取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(出願時に卒業(修了)見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(出願時に学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金の領収書のコピー
- (5) 縦4cm×横3cmの同じ写真2枚(正面上半身無帽、背景なし、最近6か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に専攻名及び氏名を明記したもの)
- (6) 住民票(下記5—(1)の県内者に該当する者のみ)
※ 配偶者又は一親等の親族が香川県内に住所を有している場合は、配偶者又は一親等の親族の住民票及び本人との関係を証明する戸籍抄本

5 入学金（予定金額）

- (1) 県内者 197,400 円
- (2) 上記以外の者 366,600 円

※ 「県内者」とは、2021（令和3）年4月1日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料（予定金額）

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の2学期に区分して納付するものとし、それぞれの

学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とします。

① 前期納付期限 4月末日 (267,900円)

② 後期納付期限 10月末日 (267,900円)

(3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料等減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料等の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金には、第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)の制度があります。

- ・ 第一種奨学金

特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者

貸与月額 (2021(令和3)年度) 80,000円、122,000円のうち希望額を選択

- ・ 第二種奨学金

優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者

貸与月額 (2021(令和3)年度) 50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円のうち希望額を選択

※ 詳細については、独立行政法人日本学生支援機構ホームページ(<http://www.jasso.go.jp/>)を確認ください。

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。

後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 20,000円

- ・ 教材用経費等 3年間分 40,000円

- ・ 納付期限 4月末日 (年会費は、2年次以降も必要です。)

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入しますが、当該保険料は後援会費の中から負担します。

10 その他

学生寮はありません。

XII ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XIII 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

Fax 087-870-1202

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成することにより、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与する。

II アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 臨床検査学の高度な専門知識と科学的検証能力の獲得に強い意欲を有する人
- (2) 臨床検査学領域における問題解決能力を備え、独創的な技術基盤の構築に向け強い意欲を有する人
- (3) 基本的な英語力を更に高め、国際専門誌の読解力や投稿への強い意欲を有する人
- (4) 臨床検査学領域における教育者・研究者を目指す人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

「専門共通科目」、「専門科目」と「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で構成し、「専門共通科目」は、1年次の前期に、臨床検査に関する幅広い研究テーマの研究課程における研究方法論を学修する1科目（「臨床検査学研究方法論」）を必修科目として、「専門科目」は、後期に高度医療専門職に必要とされる能力の獲得を目指し研究領域の教育研究について学修する4科目を選択科目として配置する。選択科目として、病態機能検査学領域では「病理病態検査技術論」と「神経生理機能検査技術論」の2科目を、病因解析検査学領域では「病原因子解析検査技術論」と「遺伝子検査技術論」の2科目をそれぞれ配置する。「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上の計4単位以上の修得とする。さらに個々の研究テーマについて独創的な視点から、研究仮説及び計画の立案、実験・解析・考察、仮説の立証を通して学位論文を完成させる、「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目6単位の必修科目として配置する。

- (1) 「臨床検査学研究方法論」は、臨床検査に関する幅広い視野を有する教育者・研究者を育成するために、臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、仮説の立案から仮説の科学的な検証に至るまでの研究課程における研究方法論について学修する。
- (2) 「病理病態検査技術論」は、消化器癌や乳癌等における癌の分子病理細胞診断に必要な技術と知識を深め、細胞接着因子の発現と上皮間葉転換による癌の浸潤、転移、悪性度に関する分子機構の解析について学修する。
- (3) 「神経生理機能検査技術論」は、神経変性疾患における活性酸素の役割や天然化

学物質の生体内情報伝達機構への影響とその作用機序について学修する。

- (4) 「病原因子解析検査技術論」は、細菌感染症に対して抗菌薬を用いない全く新しい治療法の開発に繋げるための宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について学修する。
- (5) 「遺伝子検査技術論」は、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、効率的な遺伝子検査の開発や遺伝子情報に関する情報リテラシーについて学修する。
- (6) 「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、開講は通年、1年次はⅠ、2年次はⅡ、3年次はⅢを配置し、それぞれ研究過程並びに博士論文作成過程の進度別に明示した3段階の到達水準を達成して進む順序性を設定する。満たない場合は、学修期間は4年、5年と延長する研究指導体制とする。
- (7) 専門的な研究を深化させるための「学術セミナー」を各年次に実施する。「学術セミナー」では、院生が特別研究や博士論文作成過程での課題を発表し、院生間並びに教員と院生間において相互に討論を重ね、多様な観点からの専門的な研究並びに学際的な観点からの研究の深化を図ることを目的とする。また、特色として、専門分野における豊かな学識を有する者を招聘しグローバルな視点から、教育・研究への動機づけが得られる教育研修を企画し、多様な観点から専門的な研究指導と学際的な研究指導が受けられる体制とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で、主論文（1編）を英文で作成し、査読制度のある国際又は全国学会誌に投稿、査読を経て単著又は共著筆頭の原著として発表する（印刷中の論文については、その旨記入し、アクセプトされたことが分かる証明書を添付する）。なお、主論文に関連する副論文（申請者が筆頭著者・共著者に入っている論文）の添付が望ましい。論文審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の博士学位を授与する。

- (1) 臨床検査学領域における問題を発見し、解決に導く能力を有し、自ら研究仮説の立案、研究の遂行、仮説の実証ができること
- (2) 自らの研究について、社会への説明能力があり、国際又は全国学会誌に研究成果を発表できること

Ⅲ 臨床検査学専攻の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

博士(臨床検査学)

3 博士後期課程における教育研究

(1) 教育目的

臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究・実践の深化と発展を目指し、更にこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するため、以下の能力を修得することを目的とする。

- ① これまでに構築されてきた臨床検査学の学術的基盤を背景に、新しい臨床検査法や機器・試薬の開発など、臨床検査学の更なる発展に向けて国際的視野から貢献する能力を修得する。
- ② 臨床検査に関する幅広い視野を有するとともに、保健医療分野において総合的な判断力と遂行力を備え、組織の発展・変革を推進する能力を修得する。
- ③ 地域に先駆的・創造的研究成果を積極的に公開し、県民の健康増進、疾病予防等に貢献できる能力を修得する。
- ④ 臨床検査学に関連する学問領域の教育者・研究者や医療界のみならず産業界の研究者との学術交流を深め、広い視野から見据えた臨床検査学の学術的研究に参画できる能力を修得する。

(2) 教育課程の特色

博士前期課程は、「病態機能検査学」と「病因解析検査学」の2領域からなり、人々の「健康と自立」の支援を基本理念とした高度専門職業人の養成を教育目標としている。博士後期課程では、以上のような博士前期課程における基本理念を発展的に深化、継承し、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材である高度医療専門職を育成するために、教育研究の柱は「病態機能検査学領域」と「病因解析検査学領域」の2領域とする。

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

「専門共通科目」、「専門科目」と「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で構成し、「専門共通科目」は、1年次の前期に、臨床検査に関する幅広い研究テーマの研究課程における研究方法論を学修する1科目（「臨床検査学研究方法論」）を必修科目として、「専門科目」は、後期に高度医療専門職に必要とされる能力の獲得を目指し研究領域の教育研究について学修する4科目（「病原因子解析検査技術論」、「病理病態検査技術論」、「神経生理機能検査技術論」、「遺伝子検査技術論」）を選択科目として、それぞれ配置する。「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上の計4単位以上の修得とする。さらに個々の研究テーマについて独創的な視点から、研究仮説及び計画の立案、実験・解析・考察、仮説の立証を通して学位論文を完成させる、「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目6単位の必修科目として配置する。

(3) 研究の特色

地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与できる新規かつ独創的な研究成果を創出するため、以下のような特色を持った2つの研究領域とする。それぞれの研究領域の研究対象として、病態機能検査学領域では、①さまざまな種類のがんに関する発がんメカニズム解明と病理組織検査や細胞診検査への応用、②さまざまな精神疾患の原因となる海馬での神経新生過程の解明を目指した個体から細胞レベルの組織学的、生化学的研究を含む。病因解析検査学領域では、①細菌感染症の感染メカニズム解明と新たな感染防止策の考案、②様々な疾患の分子病態の解明に基づいた遺伝子関連検査法の問題点とその解決に向けた研究を含む。

臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員

領域	専門科目	研究概要	研究指導教員
病態機能検査学	病理病態検査技術論	がん死亡率の上位を占める肺癌、胃癌、大腸癌、乳癌等における遺伝子解析及び蛋白質の発現解析とがんの組織型やがんの浸潤、転移、予後などの臨床病理学的因子との関連を解明し、病理組織検査や細胞診検査への応用を追究する。病理組織材料や細胞診材料、培養細胞を用いて、がんにおける claudin family 等の細胞接着因子の発現や EGFR、HER2、PPAR 等の遺伝子・蛋白質レベルでの発現を解析し、治療法の選択、予後の推定に役立つ因子の探索、解明を行う。さらに、病理組織検査や細胞診検査における補助診断法の開発や技術の展開に繋げ、病理病態検査の学術的発展に寄与できる研究能力を獲得する。	教授 平川栄一郎
	神経生理機能検査技術論	成人において海馬や側脳室周囲において神経新生が起こっていることが明らかになり、その異常が様々な精神疾患の原因として示唆されている。正常な神経新生には神経幹細胞が生涯にわたって維持されることが必須であり、それには多くの因子が関与している。ここでは寿命関連転写因子 FOXO1 およびその転写調節する遺伝子の神経新生過程における機能を調べる。動物モデルを用いた組織学的解析、さらに神経幹細胞を取り出し、様々な生化学的、分子生物学的な手法を用いて細胞レベルでの解析を行っていく。これらを通して将来の研究に必要な展開能力や研究手法の習得を目指す。	教授 古山 達雄

領域	専門 科目	研究概要	研究指導教員
病因解析検査学	病原因子解析検査技術論	<p>がん患者などの免疫低下宿主に対する緑膿菌などの日和見感染菌による致死性の高い腸管経由の内因性血液感染を防ぐ新たな防止策の考案を目指す。腸管上皮細胞層透過活性を示した緑膿菌について、分子生物学や細胞生物学の最先端の研究手法やカイコ等、無脊椎動物を用いた動物実験系を駆使して、どのような機構で本菌が腸管上皮細胞層から血液へトランスロケーションするのかを解明する。さらに、本菌のトランスロケーションに関わる遺伝子やタンパク質が特定されれば、それらの機能を阻害するような化合物を探索し、緑膿菌による腸管経由の内因性血液感染の新たな防止策の考案に繋げていく。</p>	教授 奥田 潤
	遺伝子検査技術論	<p>遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術、さらに遺伝子情報に関する情報リテラシーの確立を目指す。近年、様々な疾患の分子病態が解明され、その成果に基づき、遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後、新しい検査法が開発などが期待される一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れた医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。遺伝子検査学として現在の問題点の把握、研究で明確にすべきテーマを確定し、自らが研究仮説を立て、研究計画に沿って研究を実践する。</p>	教授 岡田 仁

4 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門共通科目	臨床検査学研究方法論	1 前	2			○			オムニバス
専門科目	検査学領域 病態機能	病理病態検査技術論	1 後		2		○		※演習
		神経生理機能検査技術論	1 後		2		○		※演習
	検査学領域 病因解析	病原因子解析検査技術論	1 後		2		○		※演習
		遺伝子検査技術論	1 後		2		○		※演習
	小計 (5 科目)		—	2	8	0	—		
特別研究科目	臨床検査学特別研究Ⅰ	1 通	2				○		
	臨床検査学特別研究Ⅱ	2 通	2				○		
	臨床検査学特別研究Ⅲ	3 通	2				○		
	小計 (3 科目)		—	6	0	0	—		
合計 (8 科目)		—	8	8	0	—			—

5 修了要件等

博士後期課程修了の要件は、本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上、臨床検査学特別研究必修6単位の計10単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門共通科目	臨床検査学研究方法論	<p>臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、臨床検査に関する幅広い視野を養うだけでなく、国際専門誌の読解力や英語力の更なる向上を目指す。その中で、論文中の独創的な視点、仮説の立案、実験・解析・考察、仮説の立証の進め方などについても具体的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(古山達雄/3回) 最近の脈管形成過程に関する研究の概要と、その臨床への応用について文献講読を通して理解する。</p> <p>(樋本尚志/2回) 自己抗体が産生される機序を解明するためにどのような研究がなされてきたのか、その方法論と問題点について解説する。</p> <p>(多田達史/2回) 近年の脂質代謝に関する研究、特にリポ蛋白研究の文献を用い、その内容を理解することで研究の有用性や将来性、問題点について考察し、自身の研究能力向上を目指す。</p> <p>(岡田 仁/2回) 遺伝子、分子生物学分野の最新文献を参考にして、この分野での最先端の研究について議論を行う。</p> <p>(池亀彰茂/2回) 臨床血液検査学 〈予定〉</p> <p>(徳原康哲/2回) 臨床一般検査学 〈予定〉</p> <p>(大栗聖由/2回) 臨床生体機能検査学 〈予定〉</p>	<p>教授 古山達雄 教授 樋本尚志 教授 多田達史 教授 岡田 仁 准教授 池亀彰茂 准教授 徳原康哲 講師 大栗聖由</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門科目	病態機能検査学領域 病理病態検査技術論	<p>近年の医療や生命科学の進歩により、がんの研究やその診断、治療法は飛躍的に高まっている。しかしながら、我が国における癌の死亡率は男女ともに死亡原因の第一位となり増加の一途をたどっている。講義では、肺癌、消化器癌、乳癌等における遺伝子および蛋白質の発現解析と臨床病理学的因子との関連について学ぶ。さらにはがんの生物学的特性や最近の診断や治療に関する知見を取り入れた学習を行い、がんの臨床検査、診断、治療にかかわる高度医療専門職者としての基盤を養成する。</p> <p>がんの生物学的特徴とがんの臨床病理学的特徴について概説を行い、細胞接着因子やがん遺伝子、がん抑制遺伝子、シグナル伝達、がんと microRNA、がん幹細胞、浸潤と転移等について、臨床病理学的視点からみた診断法と治療法の進歩、予後の推定について最新の文献紹介、文献的考察を行いながら進めていく。</p>	教授 平川栄一郎
	病態機能検査学領域 神経生理機能検査技術論	<p>近年神経科学の発展は目覚ましく、多くの神経疾患の病態や原因が明らかになってきている。かつて神経疾患は治らない病とされてきたが、それはもう過去のものとなってきている。本講義では、この目覚ましい神経科学の進歩および最新の検査方法について理解し、病因を解析する最先端の検査方法を開発するため必要な神経系の基礎的な構造、基本的な機能、高次脳機能について学ぶ。さらにさまざまな神経疾患の病態や原因解明のための検査方法、原因（仮説）などについて学ぶ。</p>	教授 古山達雄
	病因解析検査学領域 病原因子解析検査技術論	<p>予防接種の普及と抗菌薬の開発によって多くの微生物感染症が制御可能となり、先進国において微生物感染症はもはや脅威ではなく過去のもの、という風潮がみられた時期もあった。しかし、20世紀終盤になってメチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌などの抗菌薬耐性菌による院内感染症や重症熱性血小板減少症候群、MERS コロナウイルス、HIV、風疹、プリオン、新型コレラ菌 0139 や大腸菌 0157 などによる新興・再興感染症が臨床のみならず社会でも大きな問題となり、現在もわれわれはそれら感染症の脅威に曝されている。細菌感染症に関しては抗菌薬の使用がその治療の主流であるが、全く新しい治療法を開発するための微生物病原因子に関する基礎研究も進められている。</p> <p>本特論では微生物の病原性を解析するための先駆的な潮流である宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について概説する。</p>	教授 奥田 潤

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 科 目	病 因 解 析 検 査 学 領 域	遺伝子検査技術論	<p>博士前期課程で修得した遺伝子検査の標準化、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識をさらに深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術を習得する。即ち、</p> <p>①遺伝子検査の標準化では、国際規格である ISO15189 の規準をベースに「染色体遺伝子検査の品質保証のための指針」を検査室に定着させるための実践方法を学ぶ。</p> <p>②遺伝子検査技術では、既存の分析法の臨床的実用性を序列化し、さらに汎用性のある検査法を選択し広範な施設で遺伝子検査が定着化する方法を提案する。</p> <p>③遺伝学情報の収集では、遺伝子情報に関する情報リテラシーを確立し、遺伝カウンセリングに必要な情報を具体的に拾い出し、実践できる力量を身に付ける。</p>	教授 岡田 仁

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究 I	<p>(概要)</p> <p>研究領域における自らの研究課題を明確に決定し、博士論文作成に向けた全体的な研究計画書を立案する。①文献検討を通して研究課題を決定する。②研究課題決定の概要について第1回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、研究領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果を目指す。③研究デザイン、方法を検討し、研究計画を立案する。④研究者間の意見交換を通して、研究計画書作成上の課題を明らかにする。⑤研究計画書について研究科委員会の承認を得る。⑥研究遂行における研究倫理について本学で該当する倫理審査会の承認を得る。⑦研究計画書作成過程を自己評価し、自律的に研究テーマを焦点化、研究計画を立案するうえでの自己の課題を明確にする。この過程を通して、自律的に研究計画書を立案する能力を育成する。</p>	
		<p>がん患者などの免疫低下宿主に対する日和見感染症の制御は、超高齢社会を迎える先進諸国では重要な問題であり、緑膿菌など日和見感染菌による腸管経由の血液感染が引き金となる致死性の高い敗血症はもっとも早期に解決すべき問題の1つである。この問題を解決するには、従来の抗菌薬に加えて、新たな防止策の考案が必要とされている。現在までに明らかにされている緑膿菌の腸管経由の内因性血液感染機構について綿密な文献調査を行い、文献調査の結果に基づいて、研究仮説を立て、それを立証するためにはどのような実験系が必要かなど、具体的な研究計画を立案する。</p>	教授 奥田 潤
		<p>分子生物学や遺伝子解析技術の発展とともに、がん遺伝子や癌抑制遺伝子、細胞接着因子、miRNA等の解析が、その診断や治療、予後に推定に重要な役割を占めてきている。臨床においては、分子標的薬の適応や予後の推定に病理組織材料や細胞診材料を用いた遺伝子解析や発現解析が不可欠な検査となっている。特別研究 I では、消化器癌がんの細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達、アポトーシス等をターゲットとしたがんの生物学的特徴と臨床病理学的解析、診断、治療に関連する課題について文献検索や資料を収集し、研究計画を立案する。先行研究論文の抄読や研究デザイン、研究方法等を検討し、研究遂行に必要な材料、方法についての準備を行う。また、動物実験委員会や倫理審査委員会等の承認を得る。</p>	教授 平川栄一郎

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
		<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究 I では、当分野に関する現在までの知見を理解し、新規性をもった 3 年間で実行可能な研究テーマを明確にする。その上で研究計画を作成し、必要な実験方法の習得を行いながら実験を遂行する。</p>	教授 古山達雄
		<p>自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生、あるいは肝障害の惹起に関する機序を最新の分子生物学的手法あるいは遺伝子学的手法を用いて明らかにしていき、臨床的にどのような価値を有するか検証していく。この過程をとおして、研究活動における新たな問題点や課題について自ら把握し、それらに対してどのように対処すべきかを自ら考案し、自分の考えをわかりやすく説明する能力を養成する。</p>	教授 樋本尚志
		<p>糖尿病を代表とする生活習慣病は、年々増え続け、なかでも死因の上位を占める心疾患・脳血管疾患は動脈硬化症が原因といわれている。最近では、新規 VLDL・LDL-C 低下薬、HDL 増加薬が開発され、脂肪酸由来代謝産物、HDL 機能改善についても注目されており、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する新規サロゲートマーカーの研究・開発を目指す。研究対象として糖・脂質代謝に着目し、特にリポ蛋白代謝、リポ蛋白の構成リン脂質・脂肪酸、構造・機能的アポリポ蛋白などに関する国内外の研究動向、最新のトピックス・研究結果の分析、相互的ディスカッションをおこない、問題点・疑問点を考察し、研究計画書を作成するとともに、研究課題を見いだせる能力を養う。</p>	教授 多田達史
		<p>遺伝子を扱う分野は目覚ましい進歩がみられ、様々な疾患の分子病態が解明されてきている。その成果に基づき、検査学においても遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後も研究により、新しい検査法の開発などが期待される。一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れた医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。また遺伝子情報は個人情報も含むため、倫理的問題も存在する。特別研究 I では、遺伝子検査学として現在の問題点の把握、そして研究で明確にすべきテーマを確定する。自らが研究仮説を立て、検証していく実験計画を立案できることを目指す。</p>	教授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目		<p>特別研究 I では、幅広い視野のもと、独自の研究テーマを明確にし、予備実験の結果をもとに、自律的に研究計画書、倫理委員会審査書類等を作成する。その中で、予備試験の必要性和、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現等の検査技術の様々な応用法、そして目的とする臨床貢献へ向けた新しい血液学的検査法の開発を考え、計画書等の記載方法を学ぶ。また、実験計画とその遂行から、仮設と結果から生じる問題について考察し、解決に導く能力を習得する。さらに、討論や審査内容の結果から、医療界だけでなく産業界へと視野を広め、研究計画書や倫理委員会審査書類の弱点を理解し、今後の研究遂行を可能とするための、初歩的な研究能力を育成する。</p>	准教授 池亀彰茂
	〈予定〉 臨床一般検査学 I	准教授 徳原康哲	
	〈予定〉 臨床生体検査学 I	講師 大栗聖由	
	〈予定〉 臨床免疫検査学 I	未定	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>研究計画書を吟味・検討し計画を実践する。①「臨床検査学特別研究Ⅰ」で、明らかになった課題を検討し、研究計画書を完成する。②研究計画に則ってデータ収集を開始する。③博士論文全体の研究計画に則って研究を実施し、関連論文(副論文)を作成、査読制度がある国内外の全国学会誌に掲載を達成する。④研究過程の進捗状況を第2回学術セミナーで発表し討論、新たな課題等を発見し、より完成度の高い博士論文を目指す。この展開では、独創性や新規性が高い研究成果を博士論文に反映する。⑤学術セミナーでの意見交換等の結果に基づき、博士論文完成に向けた今後の課題を明らかにする。この過程を通して、自律的に研究論文を作成、発表する能力を育成する。</p>	
		<p>特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。特に、細菌感染症検査や抗菌薬を用いない細菌感染症の予防および治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。</p>	教授 奥田 潤
		<p>研究計画に従い研究を実施、研究結果を蓄積し、まとめていく。研究の実施、結果の整理と解析、論文作成ができる能力を養成し、問題解決能力を涵養する。病理組織材料や細胞診材料、培養細胞を用いて実験を遂行し細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達解析を臨床病理学的解析とともに進める。また、必要に応じて動物を用いた実験を行い、遺伝子および蛋白レベルでの解析を行う。研究解析結果を学術セミナー等を通して意見交換を行い博士論文の構築、修正、評価を行う。</p>	教授 平川栄一郎
		<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究Ⅱでは、計画した実験を遂行するのと並行して、得られた結果の解釈・さらなる検証の必要性等を教員と随時相談しながら、追加実験を行い、結果をまとめていく。同時に、学術セミナー等の意見や当該分野の状況を考慮し計画の検討・見直し作業を随時行う。</p>	教授 古山達雄
		<p>特別研究Ⅰの実験計画に従って、自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生されるメカニズムや肝障害を起こす機構の新たな知見を得るべく、研究活動を継続する。なお、この過程をとおして研究活動の問題点やその解決方法について自ら考え、さらに自ら対処できる能力を養成する。また、自分の考えを図表を用いてわかりやすく説明する能力も習得する。</p>	教授 樋本尚志

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
		<p>特別研究Ⅰで自ら立案した研究計画に沿って、指導教員の指導を受けながら研究を遂行し、データをまとめる。データの統計学的解析手法の検討や検定を行い、結果についての考察を行う。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間報告会にて報告する。プレゼンテーション能力、学際的な討議や意見交換能力を養い、論文完成に向けての課題を明確化し、関連論文（副論文）を作成し、査読制度のある国内外の学術雑誌に投稿する。</p>	教授 多田達史
		<p>特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。将来、科学的検証能力を備えた研究者として、遺伝子関連研究のハンドリングについてマスターすることに重きを置いている。実験を行う際の安全性の確保そして研究活動における倫理的問題（動物実験および臨床研究）についても学ぶ。</p>	教授 岡田 仁
		<p>特別研究Ⅱでは、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）を目的とし、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現についての研究を行う。研究を実践的に進めて、結果をまとめ、各種の解析方法の学びとともに、研究成果の発表の仕方を習得する。また、発表することで、あらゆる方向から研究の課題を明確化することを学ぶ。さらに意見交換を行って、課題を追求し、研究の軌道修正を行い、研究を続行して、論文を完成し、国内外の雑誌に投稿することで、研究者としての一連の基本的な能力を育成する。</p>	准教授 池亀彰茂
		〈予定〉 臨床一般検査学 II	准教授 徳原康哲
		〈予定〉 臨床生体検査学 II	講師 大栗聖由
		〈予定〉 臨床免疫検査学 II	未定

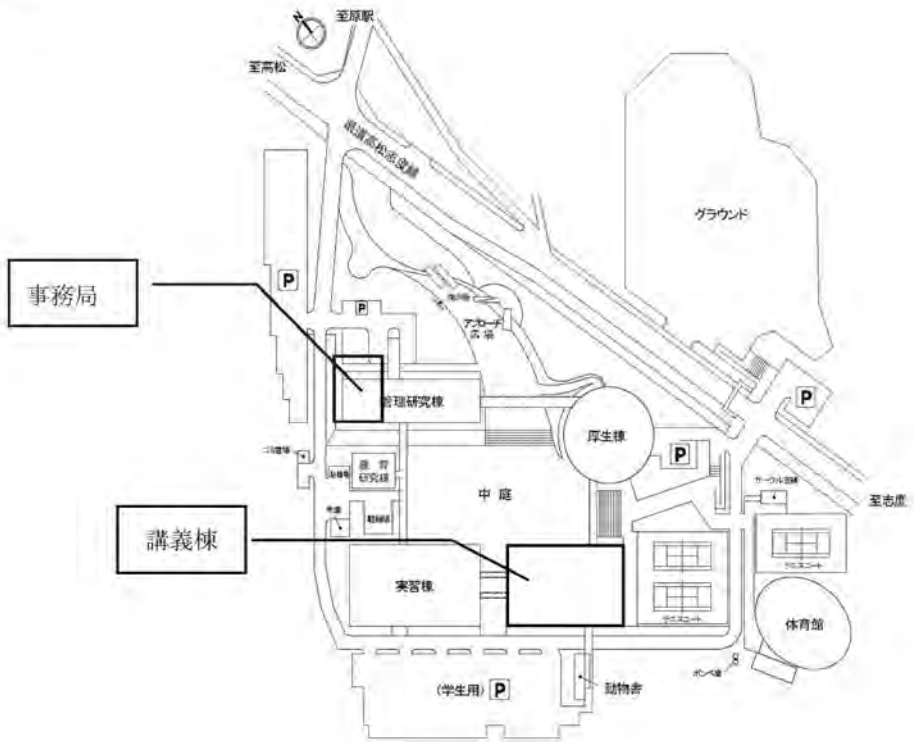
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>研究過程を推進し、博士論文を完成する。①研究計画に基づき、データを収集し、目的に沿った方法で分析する。②分析結果を論述し、研究目的に沿って、結果を考察、結論を導き出す。③博士論文の総括に関する概要について第3回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、専門領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果の発信を目指す。④他者からの意見や指摘等について検討を重ね、必要に応じて博士論文を修正する。⑤博士論文を完成し博士学位を取得する。⑥博士論文作成の過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進するための課題を明確にする。博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進する能力を育成する。</p>	
		<p>特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータを英語でまとめ、査読制度のある国際又は全国学会誌に主論文として発表する。また、主論文に関連する副論文も発表することが望ましい。最終的に発表した主論文および副論文の内容を統合し、論文審査及び最終試験に合格し、博士学位を取得する。以上のような臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、将来、何事も自分で解決できる、科学的素養を備えた世界に通用する博士号取得研究者の育成を目指す。</p>	教授 奥田 潤
		<p>研究計画に基づき研究結果の分析を進め、博士論文全体の再構築、修正を行ないながら博士論文の完成を目指す。特別研究Ⅰ・Ⅱで得られた結果をもとに考察を深め論文を作成し、国際誌への論文投稿を行う。また、論文審査と学会発表等を通して、意見交換を重ね、自律的で独創的な研究課題を明らかにし、科学的思考力の総括を行う。特別研究を通じて得られた技術や知識、経験をもとに研究プロセスを自己評価し、教育研究者としての能力を育成する。</p>	教授 平川栄一郎
		<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究Ⅲでは、実験結果の整理・検討・まとめを行い、必要に応じて追加実験を行う。適宜、学会での発表を行い、最終的に英文で論文を作成し、学術雑誌への投稿、掲載までの一連の作業を経験する。これらを通して得られた結果を発信していく方法を学ぶ。</p>	教授 古山達雄

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
		<p>特別研究ⅠおよびⅡの研究活動によって得られた研究成果を英文で博士論文としてまとめ、査読付きの科学雑誌に投稿する。査読者の意見に従って修正、または追加実験を行ったうえで博士論文を完成させる。この過程をとおして、高度な専門知識を有するのみならず、研究成果をまとめあげ、新たな現象に対する理論的裏付けができ、図表を用いて簡潔明瞭にプレゼンテーションできるなどの科学的査証能力を育成する。</p>	教授 樋本尚志
		<p>特別研究Ⅱを通して、リポ蛋白機能評価に関する臨床検査法における研究課題を明確化し、追加実験をおこなう。論文作成を目的にデータをまとめ、英文科学雑誌へ論文を投稿する。査読評価などから考察を深め、博士論文完成を目指す。博士論文作成の過程により、自律的に独創的な研究推進能力を養う。関連学会発表や博士論文審査を通して、研究する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、研究者として、自律的に独創的な研究を推進する能力を備え、博士号を取得した臨床検査技師育成を目指す。</p>	教授 多田達史
		<p>特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータをまとめ、学会および論文発表を行う。グローバルスタンダードに対応するため、英語でデータをまとめ国際学会そして欧文学術誌に発表できるようにする。さらに博士学位を取得の準備を行う。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、国際的視点を持ち科学的検証ができる博士号取得臨床検査技師の育成を目指す。</p>	教授 岡田 仁
		<p>特別研究Ⅲでは、投稿論文に対する査読内容についての研究の見直し、計画、査読者への説明等を学ぶ。更なる軌道修正がある場合は、その課題を解決に導くための方策を考え、論文受理に向けて努力し、受理された達成感を味わう。さらに自らの研究について説明する能力を養い、博士論文審査・発表からも、研究の楽しさと難しさ、達成感を学ぶ。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）の開発とともに、課題に対する独創的な意見、研究実践力、発信能力を持つ研究者の育成を目的とする。</p>	准教授 池亀彰茂
		<p>〈予定〉 臨床一般検査学 Ⅲ</p>	准教授 徳原康哲
		<p>〈予定〉 臨床生体検査学 Ⅲ</p>	講師 大栗聖由
		<p>〈予定〉 臨床免疫検査学 Ⅲ</p>	未 定

大学までの交通案内



- 西方面から
 - 高松から 国道11号 車で30分
 - ことでん志度線原駅下車 徒歩10分
- 東方面から
 - JR高徳線 志度駅から 車で5分





香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地 1
TEL 087-870-1212
ホームページ
<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>